

学体連会報

発 行 所

発行日・昭和55年11月30日
東京都渋谷区代々木神園町3番1号
国立オリンピック記念青少年総合センター内
財団法人日本学校体育研究連合会
編集責任者 理事長 重田 一

研究のダイヤモンドテーマ

会長 大石 三四郎

「白球の魅力にとらえられたのは何時の頃であったろうか。小学2年生の時『早慶戦』と題した作文が入賞した全校生徒の前で読まされたことがあったから、その頃はもうひとかどの野球通のような顔をしていたのだろう。」(昭和55年9月11日 日本経済新聞「神宮でかかった野球病-東京六大学のプレーにつかれて50年-」-菅野弘夫・総理府副長官)という文化記事があった。小学2年生でもスポーツ関係の名文が書けるのであったら、これらのセンスのある文章を集めたらナウな資料となるのではないか。中・高・大学の青少年はもとより、報道関係その他の一般人などすべての人がスポーツについて何か書いたら?……このような随想集を一冊ずつにしてシリーズにすれば、スポーツ同好者にとって格好の読み物になるのではないか。

言うまでもなく文章の内容については自由なものがよい。自由でこそ、そこに何が飛び

出すかわからないからである。また各冊の編集の仕方も自由にするのである。そして、この文章をスポーツ断想Ⅰ;スポーツ断想Ⅱ;……;……と連続していくのである。かくしてここにスポーツ文化の大地が形成され、そこからやがて多くの美しい文明の花が咲き誇るのではないだろうか。そして、この花園は我々体育関係者にとっても、研究のダイヤモンドテーマの宝庫となるのではないだろうか。この大地は、そこに登場してくる人物はもとより読者との交信の空間となったり、新しいスポーツの生まれる大河をともなって流れ行く時間を表示することにもなる。そしてこの時空に腰をすえた断想の流れは、他の文化活動の成果を「天からの貰い水として、花は花、何の花、ピッピッ・ピースの蓮の花」を咲かすことだろう。そこには大衆の力強い永遠の自然の姿がある。

確かにスポーツの歴史はスポーツのスター

史ともいえないことはない。だが一方ではその華やかな舞台裏で働く人々の記録、また舞台をみつめる一般観衆の拍手の嵐が録音されていなければならない。そしてこれらスターでない人々が、自分の好きなスポーツについて何かを書いたり言ったりすることができる手立て（手段）がなければならない。言葉をかえていえば、スポーツ文化人類学ともいべきものが大切な意義をもつのである。思えば草野球など一般人の稚拙なアマスポーツにこそ何か人間としての平和な生活があり、そこにプレーされるものにはいい知れない人類の救いがあるような気がしてならない。

最後に再び菅野副長官の随筆を続ければ、「『デートは全部神宮球場。映画館や喫茶店に連れていってもらった覚えがない。』と嘆

いていた家内も、私の野球熱が伝染して今では同病相楽しんでいる。早慶戦を見にいったまま帰って来ないので心配していると早稲田の優勝パレードについて神宮から学校まで歩いたのだという。」これを目にした人々は思わず微笑み、今まで野球の大嫌いな婦人もその宗旨を変えて野球をみにいたり、またテレビの野球放映に熱っぽい視線を移すようになるのかもしれない。そして人によっては「俺も何か書いてみよう。」と大いに意欲をわかすだろう。「スポーツというものは人をこれほどまでに惑わす魔薬」とは私の即断かも。とにかく野球って、そんなに面白いかといいたくなるほどである。

（筑波大学名誉教授・国立特殊教育総合研究所長・全国大学体育連合専務理事）

組 織 活 動 に 思 う

副会長 鈴木正三

体育の指導者による団体が、わが国に誕生したのは大正12、3年頃とされている。体育・スポーツの組織化が進んだ時代のことである。（財）日本学校体育研究連合会は、昭和21年誕生し昭和25年2月23日付で認可された日本体育指導者連盟が、昭和37年3月全国評議員会で承認され改組されたもので、同年10月8日、盛大に全国学校体育研究大会を開催したのが初仕事であったと記憶している。いずれにしてもこの学体連は各都道府県の学校体育研究団体の連合体で、わが国学校体育の中核団体として活動して今日30周年を迎えたのである。

初心にかえれとか、初心忘るべからずとは良く言われる言葉ですが、30年を迎えた今、発足当初の体育指導者の意を思いおこすのも意義深いことと考えるのであります。すなわち、彼等の心は…「楽しみは多くの者と楽しむより楽しきは無く、親は道を以て親しむより親しきは無し」ということで体育指導者という道と同じくする者が、多くの者と楽しみ、教師という道によって親しむという誠のほとばしりとして連盟を組織したこの初心を今一度改めて味ってみることも必要ではないでしょうか。

常 務 理 事 会 よ り

理事長 重田 一

1 加盟団体補助

財団法人日本学校体育研究連合会（学体連）の寄付行為（定款）に、「学校体育に関する研究調査ならびに学校における体育活動および体育研究活動に必要な援助を行う」ことが、その目的の最もたるものであると述べている。

昭和51年度より脱皮した学体連は、日本の学校体育の発展に寄与すべく、多くの方々の協力を得て目的達成に努力して来たのであるが、打出の小槌があるわけもなく、財源確保には苦勞して来ている。そのため、事務局の人員を削減し、全体の予算も圧縮した。54年度収入決算額2,264万余円に対し、55年度収入予算額は1,174万円。学校体育助成事業のうち、研究学校助成費（学校単位の研究助成費）と研究調査助成費（グループ単位の研究助成費）は、54年度決算額315万円と36万円。これを2つとも55年度は0としたところ、全国理事会で、「本部と支部の結びつきはここにあるのだから、是非これらを復活願いたい。」との発言が強く、その後の常務理事会で、研究学校助成費と研究調査助成費をあわせたものを、「加盟団体補助」として250万円を補正、計上した。既に岩手県からは県全体の体育研究協議会に東京から講師派遣の依頼が来ており、これに類する企画を含め、1都道府県ごとに5万円平均の補助をしようとしている。ご活用下さい。補正予算総額は、1,284万3千円になった。

2 全国大会

昭和54年度第18回全国学校体育研究大会は、昨年11月21、22日、東京の立正佼成会普門館ホールを全体会場として開かれ、55年度第19回は、56年1月20日（火）21日（水）、東京の渋谷公会堂で行う。今度は研究者を全国から募り、幼稚園が3人、小学校が6人、中学校が6人、高等学校が3人、盲・聾・養護学校が6人の発表者を選出した。何分にも、学校段階別に1会場で、研究発表と研究協議とを合わせて4時間半しかとれないので、精々6名の発表者まで（当初は5名）にしぼらざるをえなかった。どの発表はどのような内容かの短い解説をつけて、全国へ早くおしらせしたいと思っている。

昭和56年度は、56年11月下旬頃大阪市で開催される。研究主題は「たくましいからだを育てる。」

昭和57年度は、新潟が内定。大会準備委員会が近々発足する。

何とかして、今年のうちには58年度開催県まで内定できると有難い。

3 児童・生徒の「スポーツ綴方」募集

「スポーツはわれわれに色々なドラマを展開させてくれる。それは、正課体育や課外活動、学校行事や運動部、家庭や地域社会など、いたるところで生じるが、それらの状況をふまえて、児童・生徒が体験した生々しい心の機微（喜・怒・哀・楽・恐怖など）をありのままに」書いてもらい、幼稚園の部、小学生の部、中・高校生の部を作りたい。そしてさらに、有識者の分も作ってみたい。テレビや写真で見るスポーツの他に、感動の持続する文章での表現に期待をしている。題は「たくましいからだを」

「全国小学校体育指導者講習会」報告

東京都千代田区立今川小学校 土 屋 十 二

夏休み中の8月27日(水)、東京都立富士高校を会場として、学体連の小学校体育夏季講習会が開催され、全国から80余名の先生方が参加しました。いつもだと夏休み中で、閑散としている富士高校の教室も、この日ばかりは、研究熱心な先生方の熱気と活気で満ち溢れていました。午前中は理論、午後は実技と実のある1日となりました。

さて、午前中の理論の講習を受けた報告をさせていただきます。

①「望ましい態度、習慣の育成のシステム化」学体連会長 大石三四郎先生

主として、躰面の定着を図る講義を聞き、実践例を挙げて具体的に、また、貴重な資料もいただき大へんよい勉強になりました。

躰には、自然的に発生したものと、自分たちで作りあげていくものとの両面がある。そして、躰は人間の基本的な行動様式であり、したがって、各々の行動面に現れてくるものである。

躰に関する情報のとり方としては、7~8人のグループを編成し、グループごとに行動に現れてくる人間的な行動について記録をとっていくとよい。躰は、社会的躰7、個人的躰3の割合であるので、この割合に沿って情報をとっていくようにするとよい。そして望ましい躰を身につけさせていくには、何といっても教師たる我々の率先垂範が基本である。廊下や教室のゴミを教師自らが拾い、そうすることにより、子ども達にも自然発生的にゴミを拾う習慣が身につくものであり、それが行動化、実践化に結びついていく。

②「体育実技における望ましい態度、習慣の育成」渡部岑生先生

特にクレバリン精神作業検査の活用という面から、資料と講義によって研究を深めました。

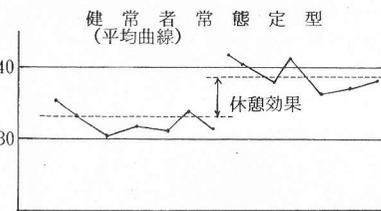
クレバリン検査は、人間の作業量を曲線に表わし、その休憩効果などを加味して、精神の健康と性格の健康状態を見る時に使用するものである。

精神が健康であるということは、個人の生活が幸福で、不満や緊張がない時である。この時のクレバリン検査の結果の一般型としては右の図のように表わされる。

クレバリン検査による人柄類型は次の通りである。

- 1. おだやか型 2. 神経質型(きずかい型) 3. 躁鬱型—(3-1 朗らか型、3-1d じっくり型、3-2 温和型、3-3 循環型) 4. 強気敢行型
 - 5. 地道粘り型 6. あっさり実行型 7. 内的安定型
 - 8. 分裂型—(8-1 むき熱中型、8-2 鈍麻(無関心)型、8-3 自閉型、8-4 敏感型、8-5 停電型) 9. 自己顕示型 10. 粘着型
- 以上、大別して10通りの評価の仕方がある。それぞれに類別された曲線型があるが、ここでは紙面の都合で省略させていただきます。

次に性格について変わるだろうか、変わらないだろうか、右の調査表によって調査し判断する方法を勉強しました。



環境(変わる)

素質(変わらない)	精神健康度	高	中	低
	おだやか	←-----→		
	神経質	←-----→		
	朗らか	←-----→		
	じっくり	←-----→		

全国小学校体育夏季講習会に参加して

福井県今立郡今立町

南中山小学校教諭 松 井 博 文

8月27日の全国小学校体育研究会に参加させていただきました。研究要項の名前に目をとおすと、全国各地から研究熱心な先生方が、多数参加されており、やはり、児童と共に1時間、1時間の授業を真剣に取り組んでいただけるのだという気がしました。また、こういった大会を開かれる先生方も、常に前向きな姿勢で体育という科目に取り組んでおられるのだと思うと同時に、教師たるもの児童のことを一番考えて常に学ぶ姿勢が必要だと痛切に感じました。私も、現場にいる一教師として、5年生の児童41名を担当しています。小学校は、高学年になるにつれ、基礎体力も充実してきます。私の学校では、新学期の始まる4月から5、6、7月と「元気に走ろう、登ろう」という運動を行っています。子供達は、集団登校で来たものから、校庭の虹の山(タイヤを積み上げたもの)を登り、若草山と名づけられた丘を、スピードには関係なくジョギングを行うような形で走り、登り棒を登ります。それを記録カードに記入していきます。その他、2校時と3校時の間に、業間体育を設け、楽しく運動しながら体力が増進する様に行っています。こういった、基礎体力を充実させる運動を体育の授業の中に基本の運動として、それも楽しみながら体力が伸びていく方法をまとまりのある形をとるのは、中々むずかしい様に思っていました。しかし、今回の講習会に出席し、各先生方から学ぶことで、学校に帰ってある程度のイメージを持つことが出来ました。

低学年の子供には、体育の各領域、それぞれの特性にふれる喜びをわからせるのは、むずかしいと思いましたが、子供達にはゲーム的なものをまじえながら、自分の手足を使い、固定施設、または用具を使って、連続的な変化に富んだ運動が必要とされているのだと気づきました。また、跳び箱、マット一つを使うにしても、いろいろな角度から見ての使い道を考えるべきだと思います。一つの用具にしても、いろいろな使い道があるものです。一つの跳び箱で方向を変え、二つのグループが、それぞれ違った運動をするなどです。垂直思考から水平思考へ、平面思考から立体思考へと多面性を考える必要性を学びました。ゲームの基本的運動の指導を受けた際は、つつい夢中になって汗を流しました。基本の運動の中で行われるゲームは、現在持っている技能をフルに生かし、いかにゲームを楽しくするか、勝敗の楽しさをグループでどう作っていくかなどを、話し合う必要があると思います。また、ゲームの実技指導では遊び方というものに、もっと目を向ける必要があり、結果として基本の運動の中の技能も身につく様にすべきなのだというような考え方が重要性を持ってくるように、思います。

この全国小学校体育実技講習会では、実技を楽しみながら、実に多くの新しいことを学びました。次回の講習会にも是非、参加したいと思っています。

第19回全国学校体育研究大会近し

常務理事 西 田 猛 男

全国学校体育研究連合会本部の努力も及ばず、本年度も各地区それぞれの事情により、全国大会の会場が引き受けられず困惑を呈したのである。そこで、研究の灯を絶やしてしまつては、期待している方々に申し訳ないということになり、また止むを得ず本部のある東京都で開催せざるを得なくなったのである。東京においても、昨年に引き続きで、まさかの感であり、都教委においても予算のメドがたたないまま実施の運びとなった次第である。しかしながら56年度は大阪開催が決定されているので、今後とも全国的な組織の繋がりを強固にして、会場選定に支障のないよう各地区の協力を期待したい。

実施要項の概要は、下記の通りである。

研究主題「望ましい態度・習慣の育成をめざして」第1日目は、昭和56年1月20日(火)渋谷公会堂で開会式、保健体育優良校・功労者の表彰 講話(文部省体育局長)、講演は「学校体育に期待するもの」の演題で、鯨坂二夫甲南女子大教授、シンポジウムは「望ましい態度・習慣の育成をめざす学校体育の効果的指導について」を課題に、講師は、松原要子東京都立教育研究所指導主事、三浦勇東京女子体育大学講師、長谷川威東京都江東区立深川第七中学校長、太田哲男順天堂大学体育学部教授、高島博社会保険中央病院心身科部長、司会は、重田一日本学校体育研究連合会理事長。講師と共に参加の先生方から活発な質問や意見を期待している。

第2日目は、幼・小・中・高校・養護学校別に会場を設け、全国から募った研究発表者(4~5名)により、研究発表、研究協議が行われる。

課題「学校における体育活動の効果的な指導——特に、望ましい態度・習慣の育成をめざして」

参加申込・宿泊申込は、道府県ごとにとりまとめ、11月20日(木)までに申込む。

新学習指導要領も小学校に於ては実施の年に入り、中・高校とも、それぞれの段階で実施方法が検討されている時期である。今回の学習指導要領においては、各学校において指導すべき中核的な事項のみが述べられており、教師の自発的な創意工夫を加えた学習指導が充分展開できるよう弾力的な運用が望まれている。それだけに現場においては、その学習指導過程に一層の専門性が要求されてきていると考えられる。今回の大会において、それが解決に少しでも役立てば、大会の目的が充分達せられたといつてよいであろう。

昭和55年度研究事業調査結果の報告

学体連加盟の各都道府県研究会が今年度当初において予定された研究事業の研究主題の調査結果がまとまりましたので、御報告いたします。各研究会相互に情報・資料交換をしていただくときに利用していただきたいと思います。

伊 藤 忠 一

昭和55年度研究事業(主題)

小 学 校

県	研 究 主 題
香 川	伸びよう動こう精一杯
〃	一人一人が目あてをもって楽しんで取り組む体育学習を旨として
〃	つくる楽しさでできる喜びを味わう体育学習
〃	楽しさを高める体育指導
〃	ひとりひとりが力いっぱいみんなと楽しく運動する体育学習を旨として
〃	体力づくり(研究発表大会)
〃	体力づくりを充実、強化するための体育指導はどうあるべきか
〃	生き生きとした体育活動をめざして
〃	意欲を高める体育指導のあり方はどうあるべきか
〃	発達段階に応じた効果的な体育指導(バスケットボール)
〃	健康安全の増進と体力の向上をはかる体育指導
〃	心とからだの健康を旨として意欲的に取り組む子どもの育成
〃	ひとりひとりに目あてを持たせ技能を高める指導
〃	体力と技能を高めるための効果的な学習指導
〃	体育に親しみ、豊かな能力を育てる学習過程を考える
〃	主体的に創造し自主的に実践する体育学習を旨として力を合わせて喜びを高める体育学習
〃	運動の楽しさを味わわせる体育指導
〃	実技研修
〃	魅力ある授業の創造をめざして
〃	地域の特性に即した教育計画とそれにもとづく個人差に応じた指導
〃	主体的に創造し自主的に実践する体育学習をめざして
〃	ひとりひとりにやる気をおこさせる体育活動の指導はどうあるべきか
〃	体育的な遊びの拡大
〃	体育経路の在り方
〃	楽しい体育授業の創造
〃	体力づくりの生活化
〃	自己実現をめざす体育
〃	業間運動、児童会活動
〃	岩手県学校体育研究大会
〃	意欲的な身体活動の促進をめざした体力づくり
〃	動きを生み出す体育指導
〃	すすんで実践する体育学習をめざして
〃	ひとりひとりが意欲をもち楽しく取り組む体育学習のあり方
〃	県小中高校学校体育研究発表大会
〃	進んで運動し、意欲的に学習活動をする児童を育成する指導はどうあればよいか

島 根	ひとりひとりがよろこんで取り組む体育学習を求めて
〃	みずからすすんで体力づくりをする子の育成
〃	子どもが喜びを感じる体育学習
〃	ゆとりと充実をめざす体育学習の評価
〃	楽しさと技能の向上をめざす体育指導
〃	心身ともにたくましく生き生きと活動する児童の育成をめざして
〃	意欲的にとりくみ助け合う体育学習をめざして
〃	育てアスッたくましく一みんなでつくり出し励まし合う
〃	楽しく学びとる子の育成一体育活動を中心にして
〃	新指導要領に基づく体育授業研究
〃	ゆとりと業間体育
〃	公開授業と研究発表
〃	喜んで実践する体育学習
〃	主体的に創造し自主的に実践する体育学習をめざして
〃	運動の楽しさを求める体育学習
〃	楽しく意欲的に運動する子どもの育成
〃	生涯にわたって運動に親しむ学習指導
〃	すべての子どもが運動の楽しさを知り、それを深めるためにはどうしたらよいか
〃	自ら考え正しく判断しそれを実践できる児童生徒の育成
〃	児童の主体性を育てる体育学習—子どもが学習する場面づくりを中心に
〃	ひとりひとりが生き生きと活動し、運動の楽しさを味わう学習指導はどうしたらよいか
〃	主体的に創造し自主的に実践する体育学習

中 学 校

県	研 究 主 題
香 川	価値ある楽しさを味わう体育学習を求めて(指導計画の作成と指導法の工夫)
〃	学校生活におけるひとりひとりの主体的体力づくりをめざして
〃	ひとりひとりが力いっぱいみんなと楽しく運動する体育学習を旨として
〃	運動に親しむ習慣を育てるにはどうしたらよいか
〃	発達段階に応じた効果的な体育指導(バスケットボール)
〃	自ら学ぶ力を高める学習指導の研究
〃	個人的スポーツ格技における指導過程と評価の工夫
〃	地域の特性に即した教育計画とそれにもと

づく個人差に応じた指導
技能を高める楽しい学習はどうあればよいか
主体的に創造し、自主的に実践する体育学習を旨として
楽しさを求めて自ら取り組むダンス学習
楽しさを求めて自ら取り組む体育学習
喜びを味わわせる体育の指導
実技研修
たくましい主体的な実践力の育成
体力づくり研究発表大会
運動のよさくびを高める指導法について
運動特性を生かした体育指導
主体的に創造し自主的に実践する体育学習をめざして

ひとりひとりにやる気をおこさせる体育活動の指導はどうあるべきか
岩手県学校体育研究大会
すすんで実践する体育学習をめざして
実践力の育成
持久力の向上
自主的体力づくり
心と体のトレーニング
体力づくりの生活化
体力づくり
地域と共に健康な東中生を育成する。心身の調和的発達を促し遅い生活習慣の形成を促す援助はどうあればよいか
生涯教育としての体育活動を目指して
中学校部活動のあり方
県小中学校学校体育研究発表大会
ゆとりあるしかも充実した保健体育の学習をするにはどう計画し指導すればよいか
(体力の向上をはかりながら健康で明るく豊かな生活態度を育てる指導)
中学生の正しいスポーツ活動を求めて
生徒の実態をふまえた効果的な指導法はどうあるべきか
子どもが喜びを感じる体育学習
ゆとりと充実をめざす体育学習の評価
たくましい心と体を育成する学校体育のあり方
集団的スポーツの指導をどのようにすればよいか
公開授業
運動の楽しさを学ばせる体育学習のあり方
すすんで実践する体育学習
主体的に創造し、自主的に実践する体育学習をめざして
創意と工夫をいかす体力づくり
生涯にわたって運動に親しむ学習指導
すべての子どもが運動の楽しみを知り、それを深めるためにはどうしたらよいか

自ら考え正しく判断しそれを実践できる児童生徒の育成
生徒の主体性を育てる体育学習指導 グループノートを活用して
器械運動における意欲を高める学習指導

岡 山 体力づくりの習慣化
都 京 ひとりひとりが力いっぱいみんなと楽しく
高 知 運動する体育学習をめざして
佐 賀 発達に応じた効果的な体育指導 (バスケットボール)
主体的に創造し、自主的に実践する体育学習をめざしてひとりひとりの体力を意欲的に高めるため
新学習指導要領に基づく指導計画の中での体力づくり
体力づくり (研究発表大会)
保健教材・体育教材研修会
生涯体育にむすびつく学校体育、運動の楽しさを学ぶ体育学習を求めて
表現力を豊かにするための指導はどうあればよいか
保健体育の学習指導の効果的な進め方はどうあるべきか
分科会 体育 体操の特性をふまえた効果的指導について
保健 保健の効果的学習指導について
養教 養教の職務を円滑に進めていくためにはどうしたらよいか

主体的に創造し自主的に実践する体育学習をめざして

体育評価
42回研究大会
第3回部活動研修会 (サッカー・陸上)
冬季研究セミナー
43回研究大会
東部地区研究大会
中部
西部

岩手県学校体育研究大会
すすんで実践する体育学習をめざして
全学校生活を通じた体育
体育的行事
自由時の体力づくり
生活化をめざした体育指導のあり方
海外体育事情視察旅行
講演会
研究集録の編集
県小中学校学校体育研究発表大会
新学習指導要領における体育の年間指導計画について
運動部活動の改善と充実について
スポーツテストの効果的実施について
種目別運動領域における安全で効果的指導法
運動部志向生徒の学習成績について
体力と運動の実践
運動の特性を生かした単元計画の作成と各運動種目の具体的な学習内容
自ら実践する体育学習
主体的に創造し自主的に実践する体育学習をめざして
体力づくりの生活化をめざして
生涯にわたって運動に親しむ学習指導 (全領域)

昭和55年度各種委員会委員名簿

。印、委員長

委員会名	業 務 内 容	委 員 氏 名		
総 務	予算、決算、事業等の案の作成、本会の運営、その他	鈴木、坂井田、田能村、森田、重田、伊藤、小西、小山、神田		
編 集	会報、紀要等の作成	浅田、入倉、西田、千葉、重田、伊藤、詫間、小西、森岡		
事 業	第一 講習会、全国大会、国際会議等の企画運営 第二 機関紙 (雑誌)、図書刊行推せん 第三 体育施設、用具、用品の開発研究	坂井田、西田、大迫、重田、福田、新村 浅田、森田、田能村、入倉、重田、森岡 遠山、鈴木、千葉、浜口、重田、岡野		
委員会名	氏 名	勤 務 先	勤 務 先 所 在 地	電 話
	伊 藤 忠 一	筑波大学附属盲学校	〒112 文京区目白台3~27~6	03:943:5421
	小 西 薫	筑波大学講師、都立北園高校教諭	〒112 文京区白山4~34~10~202 (自宅)	03:947:8654
	神 田 英 治	国立特殊教育総合研究所 (分室)	〒180 武蔵野市緑町2~1~10	0422:54:8993
	詫 間 晋 平	〃	〒239 横須賀市野比2360	0468:48:4121
	森 岡 理 右	筑波大学助教授	〒331 茨城県新治郡桜村天王台1~1~1	0298:53:2871
	新 村 正 雄	都立池袋商業高等学校長	〒114 北区滝野川5~57~37	03:916:3071
	大 迫 典 男	墨田区立両国中学校長	〒130 墨田区横網1~8~1	03:622:6922
	福 田 昇	世田谷区立代沢小学校長	〒155 世田谷区代沢5~1~10	03:413:4551
	岡 野 伊与次	新宿区立淀橋第三小学校長	〒160 新宿区西新宿6~12~30	03:342:7841
	浜 口 義 春	保谷市立保谷中学校長	〒202 保谷市本町1~17~4	0424:65:0604
	小 山 黎 子	都立池袋商業高校定時制	〒120 足立区東綾瀬2~13~20~305 (自宅)	03:629:9916

高等学校

県	研 究 主 題
香 川	統一テーマはなく、発表校が独自のテーマを設定

編集委員会の活動報告

。現代小学校体育全集（仮称）の進捗状況

全13巻からなるこの体育全集は、第1巻 学校体育、第2巻 基本の運動、第3巻 ゲーム、第4巻 体操、第5巻 器械運動、第6巻 陸上運動、第7巻 水泳、第8巻 ボール運動、第9巻 表現運動、第10巻 保健、スキー・スケート、第11巻 障害児の体育指導、第12巻 教科外体育、第13巻 体育指導の課題と解決 という構成になっていますが、第2巻から第9巻までの種目別指導書は、10月末、他の巻は11月末の脱稿で順調に進んでいます。第10巻は、スキー・スケートのためシーズンを待って、写真の準備に入るといった状況です。

全巻、本年度中に刊行予定ですが、おおよそ4冊同時発行、3回で完了という工程で進んでいます。各巻の利用方法などについては、後刻、紹介させて頂き、また、御意見も承りたいと考えています。

。児童・生徒の「スポーツ綴方」募集について

今日の教育は、学習者の立場に立って指導がなされなければならないとして、学習者の文化人類学的な資料蒐集に関心が向けられています。都市部の子どもと郡部の子どもでは、生い育った文化社会的背景の相違から、対象に対する好奇心も随分違ってきます。郡部にしても漁村と農村の子どもでは違いますし、漁村といっても北海道と鹿児島の子どもの間では、これまた可成りの差違がみられます。

このように違った意味をもつ子どもが、スポーツにかかわる時、彼等は、それぞれかかわる時の状況によって、いろいろのドラマを展開させ、そこでまた新しい体験を体と心に刻みつけます。思うに、わたくし達はこのような子どもの体験——生々しい心の機微（喜・怒・哀・楽・恐怖など）をありのままに捕えることができれば、スポーツや体育の指導に大いに役立つものと思います。

編集委員の間でも、子どもの生々しい心の出方をどんな枠組で捕えたらよいか、全国の小・中・高校をどのような割合で府県別に抽出すればよいか……などについて、検討中です。なお、来年1月末には、府県別で選考を終えて頂き、本部へ回送願えるよう計画を進めています。

。シリーズ・親と子のライフ&スポーツ

既報の如く、本シリーズは、（親と）子どもが日常生活の中でスポーツに楽しみながら健康でたくましい体と心に育つよう、写真や絵図入りで、やさしく解説することを意図していますが、このたび『子どもとお菓子』『自転車に乗ろう』の2冊の原稿がほぼできあがり、入稿の運びになりました。間もなくA5判・約96頁・美装幀でお目見えすることでしょう。（文責・あさだたかを）

事業第三（体育施設、用具、用品）の活動について

委員長 遠山喜一郎

教育は教師と学習者の「両手の拍手」といわれるが、体育の場合は、それに施設・用具が大きな役割を果たすことはいうまでもない。学習指導要領が改訂され、体力づくりが強く打ち出されても施設・用具はあまり変わっていない。

これで体育の目標が達成できるのだろうか。これまでの体育は、ややもすれば技術中心に流れてきた傾向があるが、これからは指導法とも関連して体力づくりに目を向けられなければならない。

しかも、体育の研究は進歩し、器材は発展しているにも拘らず、施設・用具の改良、新具の開発は進んでいるとはいえない。そうしたことから委員会では、小・中・高それぞれ運動領域別に現場の問題点をえぐり出し、効果と能率、事故防止、安全と耐久の面から改良を加えていきたい。

さらには、目標達成の上から必要かつ効果のある施設・用具を開発し、新しい時代の要請に答えたいと願っている。そのためには、体育業者の協力が不可欠であるので、「日本体育施設研究会」の組織と一体となり、改良と開発に取り組んでいくことにしている。

こうした意図をお汲み取り頂き、全国から多くの問題点、新具への発想、その他、ご希望やご意見などをお寄せ下さることを大いに期待している。

日本スポーツ教育学会設立の趣旨

近年、体育・スポーツをめぐる諸情勢は、刻々と変化し、旧来のあり方に反省が加えられるに至っております。すなわち1950年代は、体育理論に新しい教育学の知見が導入され、60年代は、体育が教育的社会的要請を受けて、スポーツ教育学へ移行し、70年代は、スポーツ教育学が概然とスポーツ科学の一領域を占めるようになりました。これは身体運動文化が、人間のあり方や文化の変容に対して、新しい意義をもって機能して行かざるを得なくなり、見直しが必要となった証拠だと思われまます。

このようにスポーツ教育は、新しい意味内容を込めた概念として、近年西欧諸国では注目を集めておりますが、我国では、未だしの感があり、むしろ逆に、体育という名称に拘泥しているむきさえ伺われます。

わたくし達の意図する「日本スポーツ教育学会」は、こうした内外の認識を踏まえ、スポーツ教育の実践的あるいは学際的研究を推進し発展させようとするものであります。

試みに、1970年以降、西欧を中心に国際スポーツ教育学会設立の気運がありますし、西独カールスルーエ大学では、西独体育教師連盟（現在は西独スポーツ教師連盟）の主催によって、世界17ヶ国、50名の招待者を迎え、スポーツ教育学の国際シンポジウムが開催されました。

こうした動向を顧みますと、スポーツ教育をめぐる新しい波は、徐々に押しよせてきつつあり、また、今日の学問の国際性を考える時、近い将来、必ずやそれへの対応に迫られるものと思われまます。それと同時に、我国の体育・スポーツをめぐる情況に、新風を送り込むためにも、本学会がその役割を担うべきものと料する次第であります。

このような趣旨をお汲みとりいただき、先生におかれましても、本会の設立と発展に是非とも力をお貸しいただきたいと存じます。

昭和 年 月 日

発起人

日本スポーツ教育学会会則

総 則

第一条 本会を日本スポーツ教育学会 (Japanese Society of Sport Education Studies) と称する。

第二条 本会は、スポーツ教育の発展に寄与し、会員相互の情報交換、研究協力を促進することを目的とする。

事 業

第三条 本会は第二条の目的を達成するために次の事業を行なう。

1. 学会大会の開催
2. 研究会・講演会等の開催
3. 機関誌の発行
4. 内外の諸団体との連絡と情報の交換
5. その他本会の目的に資する事業

会 員

第四条 本会は、正会員の他、学生会員、賛助会員、および名誉会員を置くことができる。

1. 正会員は、第二条の目的に賛同し、正会員の推薦および、理事会の承認を得て、規定の入会金および会費を納入した者とする。
2. 学生会員は、大学生 (学士課程) およびそれに準ずる者とする。
3. 賛助会員は、本会の事業に賛助する者で、理事会の承認を得た者とする。
4. 名誉会員は、本会に特別に貢献のあった者で、理事会の承認を経て総会で承認された者とする。名誉会員の中から理事会の推薦によって顧問を置くことができる。

第五条 会員は、本会の編集発行する機関誌等の配布を受け、本会の営む事業に参加することができる。

第六条 会員にして会費の納入を怠った者および会の名誉を棄損した者は、理事会の議を経て総会において会員としての資格を停止または、除名されることがある。

役 員

第七条 本会の事業を運営するために、総会において正会員の中から、会長 (1名)、副会長 (2名)、理事若干名、監事 (2名)、を選出する。

第八条 会長は、本会を代表し会務を総括する。

副会長は、会長を補佐し会長に事故がある時、これを代行する。

理事は、会務を執行する。

監事は、会務を監査する。

第九条 役員任期は2年とし、再任を妨げない。

第十条 本会に名誉会長を置くことができる。

会 議

第十一条 本会の会議は、総会および理事会とする。

第十二条 総会は本会の最高議決機関である。通常総会は、毎年1回開催し、役員を選出および本会の運営に関する重要事項を審議決定する。総会は、会長が招集し当日の出席正会員をもって構成する。

第十三条 臨時総会は、理事会が必要と認めた場合、もしくは正会員の1/3以上の開催請求があった場合、開催することができる。

第十四条 理事会は、理事の互選により理事長を選出する。理事会は理事長が招集し、会務を処理する。理事長は、幹事若干名および事務局員若干名を任命する。

支部および専門分科会

第十五条 本会の事業を推進するために、支部ならびに専門分科会を置くことができる。支部ならびに専門分科会についての規則は別に定める。

会 計

第十六条 本会の経費は、会費、寄付金およびその他の収入をもって支弁する。

第十七条 会員の会費は次のように定める。

1. 入会金	1000円
2. 正会員 (年額)	5000円
3. 学生会員 (年額)	1000円
4. 賛助会員 (年額)	一口、30000円

第十八条 本会の会計年度は、毎年4月に始まり翌年3月に終る。

事 務 局

第十九条 本会の事務局は、当分の間、〒305茨城県新治郡桜村天王台1-1-1 筑波大学体育科学系日本スポーツ教育学会に置く。

付 則

1. 本会の会則は、総会において出席正会員の2/3以上の賛成により変更することができる。
2. 本会則は、昭和 年 月 日より施行する。

『日本スポーツ教育学会』入会 (個人加入) へのお誘い

はじめに

菊薫る11月8日、文化の日を記念して、運に失したとはいえ、「日本スポーツ教育学会」の創設準備会がもたれ、来年 (55年) 3月、当学会を設立する運びになりました。以下、この学会が、何故必要か、どんな学会で、どんなことをする学会かなどについて簡単に説明し、小・中・高校の諸先生方にも是非入会して頂き、理論・実践の両面に亘り、協力し合って成果をあげて頂きますようお願いする次第です。

設立の理由

最近、体育研究は、個別専門関連諸科学の影響を受けて、ますます細分化して参りました。特に自然科学の領域では、これが顕著になってきています。例えば、体育現象は教育現象であって、単なる生理現象や心理現象ではないのですから、生理学や心理学だけでは、体育現象は解き得ないということはいうまでもないことですし、他の体育の個別科学についても、これと同じことがいえます。

思うに、今日、体育学を体育科学と言い換えれば、一見、体育が科学として学問らしく思われますが、実は、体育科学という名称は、既に1920年代に独逸でツルンビッセンシャフト (Turnwissenschaft) という名称でいわれていました。しかし当時、ドイツでもこの体育科学という概念では国内で通用するとしても国際的には通用しないということで、スポーツ科学 (Sportwissenschaft) という概念の有効性について検討されていまして、また、この場合の科学のよって立つ根拠は何処かと言えば、やはり、教育学に求められていたわけです。そして、スポーツ医学・スポーツ生理学・スポーツ心理学・スポーツ社会学・スポーツ史・スポーツ教育という名称もこの当時からあるにはありましたが、これらの概念は、1933年のヒトラー政権の第二次世界大戦への突入と同時に、沙汰止みとなってしまいました。

また、英国では、体育という用語は、1840年ごろには身体教練 (physical drill) これが1870年ごろから身体訓練 (physical training) に変わり、そして漸く、戦後になって今日の体育 (physical education) という言葉が一般的に用いられるようになりました (しかし、現在でも英国では、体育の目標についていう場合には、体育、内容や方法についていう場合には、身体訓練という用語を意識的に使用する傾向があります)。

ところで、第二次大戦後は、さきに沙汰止みになっていたスポーツ科学 (含、個別スポーツ専門科学) という用語が、再び1950年代には西ヨーロッパ諸国で一般的に用いられるようになり、わが国でも、ユネスコの中にスポーツ社会学やスポーツ史の分科会が設置され、1960年代には、日本スポーツ心理学会、日本スポーツ社会学会、日本スポーツ史学会 (昭和54年には日本で国際会議を開催)、1970年代にはアメリカでスポーツ哲学会等がそれぞれ創設され、また、日本でもこの種の学会が漸く産声をあげるようになりました。

思うに、4年前、筑波大学でスポーツ哲学会を発足させましたが、この時も、スポーツ教育学会を、と考えたことがあります。また、3年前の日本体育学会・体育原理専門分科会総会の席上で、スポーツ教育学会の設立を提言したことがあり、さらに、54年8月の同分科会の夏期研修会では、「欧米におけるスポーツ教育学の内容について」報告し、スポーツ教育学会設立の必要性を訴えたことなどがありますが、いずれも、「体育との混同があるのではないか」ということで、現在に至っています。

周知の通り、30年前に設立され、現在では、4000人の会員を擁するマンモス学会——日本体育学会がありますが、この学会には12の専門分科会があり、個別専門科学の名の示す通り、逐年、研究内容が細分化されていく情況 (前述) にあります。

「学会」加入へのお誘い

この「日本スポーツ教育学会」は、前述のようなスポーツ科学の国際的趨勢と国内の体育研究の細分化の現状に鑑み、研究を分化の方向ではなくに、分化の内容をまとめ統合しようとする意図するものです。これがためには、体育研究は、特に、個別専門科学 (方法) についていえば、実験室から敢えて授業等の体育現象の場に進出し、体育現象そのものを、研究のねらいに応じて個別科学の知見を総合、方法化して投入し、教育現象として統一的に解析、把握しようとするものでなければなりません。

したがって、例えば実践者 (教師) と研究者、行政官 (教育長や課長・指導主事等) 等が一体となって、体育現象の改善を計るようなシステムづくりとそれに基づく実践的研究がこの学会のねらいの一つになります。

とにかく、本学会は、社会体育・学校体育 (小・中・高・大) をはじめ、幼稚園や老人ホームなど体育実践の指導に直接貢献できることを念願して設立の運びになりましたので、奮って、この「日本スポーツ教育学会」の会員として活躍して頂くようお願いするとともに、お誘いする次第です。

(世話人・浅田隆夫)

尚、詳細についての問い合わせは、下記に連絡して下さい。
(茨城県新治郡桜村天王台一 筑波大学体育科学系 TEL 0298-53-6341 or 2869)

Columbine

着る身になって良い品づくり

コロンバイン®

スポーツウェア

児 島 株 式 会 社

倉敷市児島小川2丁目4番60号 TEL (0864) 72-2830

- (〒330) 関東営業所…埼玉県大宮市上小町1085 TEL (0486) 42-5883(代)
- (〒453) 名古屋営業所…名古屋市中村区竹橋町24番17栄和ビル TEL (052) 451-8196(代)
- (〒028-36) 東北児島(株)…岩手県紫波郡南村流通センター北1丁目 TEL (0196) 38-7501~2
- (〒060) 札幌営業所…札幌市中央区北三条西17丁目 TEL (011) 631-3376(代)

児童・生徒の為に

最適な体育衣料を真剣に考える



Yacht®

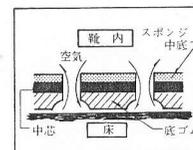
スポーツウェア

明石被服興業株式会社

- 本 社 〒711 岡山県倉敷市児島田の口1-3-44 TEL (0864) 77-7701
- 東京支店 〒103 東京都中央区東日本橋1-4-10 TEL (03) 861-1917
- 大阪営業所 〒541 大阪市東区北久太郎町4-55-703 船場グランドビル7階 TEL (06) 245-7461
- 福岡営業所 〒812 福岡市博多区豊2丁目 TEL (092) 451-6920
- 宇部営業所 〒759-02 山口県宇部市厚南区際波 TEL (0836) 41-7311

～斯界の待望に応え、
絶讃をあげて登場した～

呼吸シューズ



(体育館用・
上ばき用)
(サイズ)
14.0~27.0
(カラー)
青赤緑黄白

- 実公報 昭53-40340号
- 商公告 昭54-14325号

— 3つのドキュメント —

- 靴底に絶えず新鮮な空気の流れる …………… 呼吸シューズ
- 運動の度に吸気、排気を忠実に実行する …………… 呼吸シューズ
- 靴底に輝かしい光のさし込む …………… 呼吸シューズ

日本教育シューズ協議会

セスコードーⅡ型

これがスポーツ万能測定器です



(P.C.T. 特許出願済)

製造元 東京都練馬区関町1-3
〒177 TEL (03) 929-3758(代)

(株)井上製作所

(アイ・エス・シー)

これさえあればスポーツで必要な時間測定はすべてOK!!

一般体育授業に最も優れた性能を発揮します。

音楽演劇放送ダンス等のタイミング調整など最適です。

蛍光表示と違い電池の持続時間は連続2,500時間です。

小型で軽量です。

ご用命はお近くのスポーツ店
又は製造元へお問合せ下さい。



株式会社
ぎょうせい
営業所 東京都新宿区西五軒152 番162
電話 03 266-2141 大代表 転東京 09-161

楽しい体育

●小学校学年別体育指導ワイドカード

●カード二三六枚／●手引書／●一六学年セット価八〇〇〇円

●監修 大木昭一郎
●編集代表 福島良久
三浦一郎

新学習指導要領の
①基本の運動、②ゲーム、
③体操、④器械運動、
⑤陸上運動、⑥水泳、
⑦ボール運動、⑧表現運動
⑨保健、⑩集団行動
にそって学年別
領域別に編集。

第一学年 カード二十七枚／手引書一冊／一〇〇〇円
第二学年 カード二十七枚／手引書一冊／一〇〇〇円
第三学年 カード三十三枚／手引書一冊／一〇〇〇円
第四学年 カード三十三枚／手引書一冊／一〇〇〇円
第五学年 カード五十七枚／手引書一冊／一〇〇〇円
第六学年 カード五十九枚／手引書一冊／一〇〇〇円

体育・スポーツ指導実務必携 昭和55年版
文部省体育局 監修 B6・二二〇円(千巻)
体育指導や体育行政の任にあたるかたに、体育・スポーツに関する正
確な知識と運用方法について理解を深める体育・スポーツ指導の待望書

スポーツ事故に備える知識
(勸)日本体育協会日本スポーツ少年団 編 A5・二、八〇〇円(千巻)
安全管理とその指導法を提示した百科、数多い訴訟事件の中からスポ
ーツ指導者・管理者のための法律基礎知識、〇上の問答を収録

|| こころからの健康づくり ||

トリム 家庭読本
総合監修 武見太郎 編集(勸)余暇開発センター
幼児から高齢者まで、たれでもできる健康法を、豊富なイラスト・
図・表を用い、わかりやすく解説したトリム運動の入門書
A4変型一冊刷・一、五〇〇円(千300)

編集のあとがき

昭和55年度、第2回目の会報が漸くできて、何となくほっとしています。1万5千部も作って、みなさんがよく見て下さるだろうか、みることによって浮かぶかもしれないよい考えをおしらせ下さると有難いと思うのです。小・中・高校が一つになって県ごと加盟する全国組織の団体は、この学体連だけなので、何とか皆さんのご協力ですらによいものに高めたいと願うのです。